

**EU・スウェーデン共催「インド太平洋閣僚会合」における
林外務大臣によるスピーチ
(2023年5月13日(土)、於:スウェーデン・ストックホルム)
Keynote Speech by Minister HAYASHI Yoshimasa
at the EU Indo-Pacific Ministerial Forum in Stockholm
on Saturday 13 May, 2023**

国王陛下、皇太子殿下、
ビルストロム・スウェーデン外相、ボレル欧州対外活動庁上級代表、御列席の
皆様、
本会合にお招きいただき、基調講演をさせていただくことを光栄に思います。

本日、私は、三点を訴えたいと思います。第一に、今こそ、法の支配に基づく
自由で開かれた国際秩序を守りぬくことが重要であるということ、第二に、イン
ド太平洋地域におけるそうした秩序の具現化として、「自由で開かれたインド
太平洋」の実現を目指していること、そして第三に、そのためにも日本と欧州
のパートナーとの連携を深めることが不可欠ということです。

国際社会は、今、歴史の転換点にあります。ロシアによるウクライナ侵略は、
国際秩序の根幹を揺るがしています。世界のどこであっても力による一方的な
現状変更の試みは受け入れられず、法の支配に基づく自由で開かれた国際
秩序に対する挑戦は、決して単なる地域的な問題ではありません。国際社会
が一致して対応しなければならない共通の課題です。このような課題に連携し
て取り組まなければ、同様な挑戦が他の地域でも発生しかねず、我々の平和
と繁栄を支えてきた既存の秩序が根底から覆されかねません。

その意味で、欧州とインド太平洋の安全保障を分けて論じることはできないの
です。本日、ここストックホルムに欧州及びインド太平洋の閣僚が集い、法の
支配に基づく自由で開かれた国際秩序の重要性、そしてそのような秩序がイ
ンド太平洋でも守られる必要があることについて議論する機会を持つことは極

めて重要であり、時機を得たものです。本国会合を主催したビルストロム・スウェーデン外相とボレル欧州対外活動庁上級代表に対して改めて敬意と感謝を申し上げます。

先月私が主催したG7外相会合では、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守り抜くというG7の強い意志を、力強く示すことができました。このビジョンは、脆弱な国にこそ自由を享受するためには法の支配が必要であること、国際社会では多様性、包摂性、開放性が必要であり、誰も排除しない、価値観を押し付けないことが重要であることを訴えるものです。このようなビジョンは多くの国が共有できるものであり、国際社会の結束を確保する基盤となります。来週のG7広島サミットでも、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守り抜くという、G7の強い決意を世界に示していきます。

「自由で開かれたインド太平洋」とは、地域におけるそのような秩序の具現化です。

しかし、インド太平洋では、東・南シナ海において、中国は力による一方的な現状変更の試みを継続・強化しています。台湾周辺での軍事活動も活発化させています。また、中露は、日本周辺での共同飛行、共同航行などの、軍事連携を強化しています。4月に私が訪中した際には、こうした点について、中国側に対して我が国の深刻な懸念を改めて直接表明しました。

さらに、北朝鮮は、我が国のEEZ内に落下した物も含めICBM級弾道ミサイルの発射を繰り返すなど、前例のない頻度と態様で弾道ミサイル発射を行っており、挑発をエスカレートさせています。

こうしたインド太平洋の厳しい安全保障環境を前にして、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守っていくためには、インド太平洋の国々のみならず、欧州の同志国とも結束して対応していくことが死活的に重要です。日本は、欧州諸国のインド太平洋地域への関与強化を歓迎しています。

また、日本は、ASEAN中心性・一体性への揺るぎない支持と「インド太平洋に関するASEANアウトルック」に沿った協力の推進にコミットしています。さらに、「ブルーパシフィック大陸のための2050年戦略」の実現を力強く支え、太平洋島嶼国との連携を図っていきます。

本年3月、岸田総理は、「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」のための新たなプランを発表しました。この新プランに基づき、日本は国際社会を分断や対立ではなく協調に導くため、FOIPの実現に向けた各国との協力を拡充していきます。

FOIPプランのひとつの重要な柱は、連結性の強化です。日本は、FOIPのための新たなプランにおいて、2030年までに民間投資や円借款等を通じて官民合わせて750億ドル以上の資金をインド太平洋地域に動員し、各国と共に成長していくことを表明しました。

こうした取組は、EUが進める「グローバルゲートウェイ」に基づく協力とも軌を一にします。日本は、EUとの間で、2019年に発表した「連結性パートナーシップ」に基づき、持続可能な連結性及び質の高いインフラに関して協力していきます。

こうした連結性の向上や質の高いインフラの協力のみならず、インド太平洋において、EUは日本にとって重要なパートナーです。近年、EUが海洋プレゼンスをインド洋に拡大するなど、インド太平洋への関与を強めていることを心強く思います。EUとの安全保障・防衛協力を更に発展させるべく、新たな協力の方向性を、来るべき首脳協議の機会に示したいと考えています。

また、経済安全保障分野での協力も重要です。グローバル・サプライチェーンの脆弱性、重要技術の窃取、知的所有権の強制移転、経済力を背景とする威圧的な国益追求などの新たな課題が顕在化しています。そのような脅威の課

題への抑止及び対応を強化するため、日本とEUは、新興国や発展途上国のパートナーを含む、志を同じくするパートナーとの協働を一層拡大していく必要があります。

法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を守り抜くため、日本は、本日お集まりの欧州及びインド太平洋の同志国と共に、国際社会の取組をリードしていく考えであることを申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。